

美は
暮らしの
なかに
ある

民藝

民藝 MINGEI

美は暮らしのなかにある

〔上から〕緑黒釉掛分皿 因幡牛ノ戸 1931年頃／流描皿 河井寛次郎 京都 1927-28年頃／藍鉄絵紅茶器 濱田庄司 栃木 1935年頃 いずれも日本民藝館蔵 Photo: Yuki Ogawa

観覧料 一般:1,100円(880円) 高校・高専・大学生:500円(400円) 小・中学生:300円(240円)

●当日券のみ販売 ●カッコ内は20名以上の団体割引料金 ●いわき市内在住の65歳以上の方、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料 ●いわき市内の小・中・高・専修(高等課程)・高専生は土曜日と日曜日のみ無料



オフィシャルサポーター・国分太一

国分さんのコメント全文は
本展公式サイトからお読みいただけます。



「生活のなかに美がある」という柳宗悦さんの運動、今ではあたりまえのように思える考えだけど、じつはあたりまえじゃなかった。柳さんはすごいことをやっていたんだなあ、と思います。自分でも仕事で日本全国を歩くなか、各地のものづくりの伝統が途絶えてしまう現状も目の当たりにしてきました。でも、日本には良いものがたくさんある。このすばらしい民藝の活動に、僕も参加させていただけることに感謝しています。

会期中の催し物

●講演会

暮らしのなかの民藝

〔日時〕11月5日(日) 14:00-16:00

〔講師〕森谷美保(本展監修／美術史家)

〔会場〕セミナー室(3階)

〔定員〕40名(当日先着順・事前申込不要)

〔参加費〕無料

●公開制作

岩手の民藝「鳥越竹細工」を知る

作り手である柴田恵さんのお話を聞き、

実際の手仕事を見ることで理解を深めます。

〔日時〕①11月18日(土) 14:00-15:30

②11月19日(日) 10:00-11:30

※内容は①②共通

〔講師〕柴田恵(竹のめぐみ主宰)

〔会場〕セミナー室(3階)

〔定員〕各回40名(当日先着順・事前申込不要)

〔参加費〕無料

●ワークショップ

三春人形と触れ合おう!

福島民藝「三春人形」の制作の

様子を見学し、絵付けの体験をします。

〔日時〕11月25日(土)

①13:00-14:30

②15:00-16:30

※内容は①②共通

〔講師〕橋本彰一

(デコ屋敷大黒屋代表取締役)

〔会場〕実技講習室(3階)

〔定員〕各回15名

〔対象〕小学生以上

(小学3年生以下は保護者同伴)

〔参加費〕500円

〔応募〕10月28日(土)から電話受付

(要事前申込・先着順)

オリジナルグッズセットチケット

宮入圭太

本展オリジナルアート サコッシュ

染色家／アーティスト・宮入圭太さんの描きおろし作

品があしらわれたサコッシュ(斜め掛けの小型バッグ)

と本展観覧券がセットになったお得なチケットです。

販売価格:2,600円(税込)

数量限定

サイズ(約):本体/横170×縦225mm

持ち手/横10×長さ1150mm

素材・色:キャンバス、生成

●画像はイメージです。実際のデザ

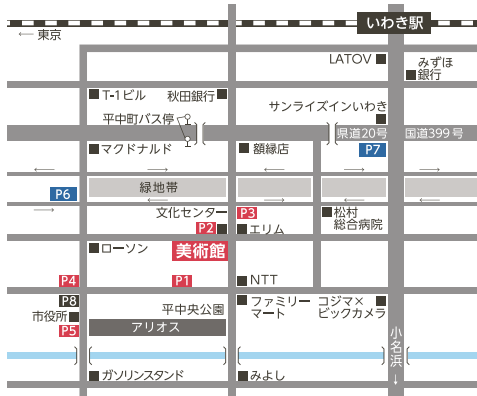
インは若干異なる場合があります。

●会場販売のみとなります。

●同サイズで別デザインのサコッ

シュ(税込1,800円)を特設ショップ

で販売予定です。



交通のご案内

- JR常磐線・磐越東線いわき駅南口より徒歩12分
- 高速バス(東京-いわき線、郡山・会津若松-いわき線、福島-いわき線) 平中町バス停より徒歩3分
- 常磐自動車道いわき中央I.C.より車で15分
- 駐車場は近隣の公共駐車場②③をご利用ください。①美術館(44台)、②文化センター(69台)、③エリム(19台)、④童子町(82台)、⑤梅本(268台)
- 有料駐車場⑥平新川(51台)、⑦平十五町目(131台)は、美術館利用の場合、最大3時間までの駐車券を1階受付にてお渡します。
- 市役所駐車場⑧(240台)は、土日祝日に一般開放しています。

いわき市立美術館
Iwaki City Art Museum

〒970-8026 福島県いわき市平字堂根町 4-4

お問い合わせ・お申し込み

TEL0246-25-1111(受付時間 9:30-17:00/月曜日休館)

<https://www.city.iwaki.lg.jp/artmuseum.html>

●記載の内容は予告なく変更・中止となる場合があります。最新の情報は当館HPかお電話でご確認ください。



2023 10/28 Sat.
— 12/17 Sun.

〔開館時間〕9:30-17:00

〔休館日〕月曜日

〔会場〕いわき市立美術館 企画展示室(2階)

〔主催〕いわき市立美術館、福島民報社、福島放送、

朝日新聞社、東映

〔協賛〕クリナップ

〔特別協力〕日本民藝館

〔協力〕静岡市立芹沢銈介美術館、カトーレック

いわき市立美術館
Iwaki City Art Museum



上: 養 岩代檜枝岐 1930年代
下: (左から) 角酒瓶 小谷眞三 倉敷 1979年、酒瓶 小谷眞三 倉敷 1985年頃、栓付瓶 メキシコ 20世紀中頃 Photo: Yuki Ogawa
いずれも日本民藝館蔵

〔展覧会公式サイト〕<https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>

〔展覧会公式SNS〕 @mingeiten @mingeiten



約100年前に思想家・柳宗悦は日常生活のなかで用いられてきた手仕事の品々に美を見出し、「民衆の工藝=民藝」の考えを唱えました。日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる、この「民藝」のコンセプトはいま改めて必要とされ、私たちの暮らしに身近なものとなりつつあります。本展では、民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約150件を展示します。また、いまに続く民藝の産地を訪ね、そこで働く作り手と、受け継がれている手仕事も紹介します。さらに、昨夏までセレクトショップBEAMSのディレクターを務め、現在の民藝ブームに大きな影響を与えてきたテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)による、現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころのひとつです。

柳が説いた生活のなかの美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからを展望する展覧会です。

第Ⅰ章：1941生活展 ——柳宗悦によるライフスタイル提案

1941(昭和16)年、柳宗悦は自身が設立した日本民藝館(東京・目黒)で「生活展」を展開。民藝の品々で室内を装飾し、いまでいうテーブルコーディネートを表示しました。暮らしのなかで民藝を活かす手法を提示した、モデルルームのような展示は当時珍しく、画期的でした。第Ⅰ章では実際に出品された作品を中心に、「生活展」の再現を試みて、柳が説いた暮らしの美を紹介します。



心緑釉水注 イギリス 14世紀 日本民藝館蔵
日本民藝館「生活展」会場写真 1941年

第Ⅱ章：暮らしのなかの 民藝——美しいデザイン

柳宗悦は、陶磁、染織、木工などあらゆる工芸品のほか、絵画や家具調度など多岐にわたる手仕事の美を、日本のみならず、朝鮮半島、中国、欧米などの各国を訪ね、集めました。時代も古くは縄文時代から、柳らが民藝運動を活発化させた昭和にいたるまでと幅広く、とりわけ同時代の、国内各地で作られた日常用品に着目し、それらを積極的に紹介しました。第Ⅱ章では民藝の品々を「衣・食・住」に分類し、それぞれに民藝美を見出した柳の視点をひも解きます。



衣



食



住



上: 裂織丹前(部分) 越前 江戸〜明治時代 19世紀 日本民藝館蔵*
下: [左から] 駒散し文様羽織 江戸時代 19世紀 日本民藝館蔵 / 繪ショール 青田五良 京都 1930年頃 個人蔵* / 木綿切伏衣 アイヌ(北海道) 19世紀 静岡市立芹沢銑介美術館蔵

上: スリップウェア角皿 イギリス 18世紀後半-19世紀後半 日本民藝館蔵*
下: [左から] 染付羊歯文湯呑 肥前有田 江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵 / 塗分盆 江戸時代 18世紀 日本民藝館蔵 / 網袋(鶏卵入れ) 朝鮮半島 20世紀初頭 日本民藝館蔵

上: 桐文行燈 江戸時代後期 個人蔵*
下: [左から] 芯切鉢 京都 1920年代後半-1930年代前半 日本民藝館蔵 / (左上から時計回りに) 手箒 仙台郡山 1939年頃 日本民藝館蔵、鹿沼箒 下野鹿沼 1939年頃 日本民藝館蔵、手箒 信州 1939年頃 日本民藝館蔵 / 円座 朝鮮半島 1930年代 日本民藝館蔵 / 椅子 オーストリア 19世紀初頭 静岡市立芹沢銑介美術館蔵

*はPhoto: Yuki Ogawa

第Ⅲ章：ひろがる民藝——これまでとこれから

柳宗悦の没後も民藝運動は広がりを見せました。濱田庄司、芹沢銑介、外村吉之介が1972(昭和47)年に刊行した書籍『世界の民芸』では、欧州各国、南米、アフリカなど世界各国の品々を紹介。各地の気候風土、生活に育まれたプリミティブなデザインは民藝の新たな扉を開きました。一方、民藝運動により注目を集めた日本各地の工芸の産地でも、伝統を受け継いだ新たな製品、職人たちが誕生しています。本展では国内5箇所の産地で継承されてきた民藝の品々や、そこで働く人々の「いま」を紹介します。

そして、本章最後では、現在の民藝ブームの先駆者ともいえるテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)の愛蔵品や、世界各地で見つけたフォークアートと現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」を、インスタレーション展示で提案します。



[左から] 濱田庄司、芹沢銑介、外村吉之介『世界の民芸』 朝日新聞社 1972年 個人蔵* / 人形 フニン県ワンカヨ(ペルー) 20世紀後半 静岡市立芹沢銑介美術館蔵 / 靴下 アゼルバイジャン地方(イラン) 20世紀後半 静岡市立芹沢銑介美術館蔵



工芸の各産地の制作風景
[左から] 倉敷ガラス(岡山)* / 鳥越竹細工(岩手)* / 八尾和紙(富山)*

本展特設ショップも
お楽しみに!

MOGI Folk Artディレクターの
テリー・エリスと北村恵子*

